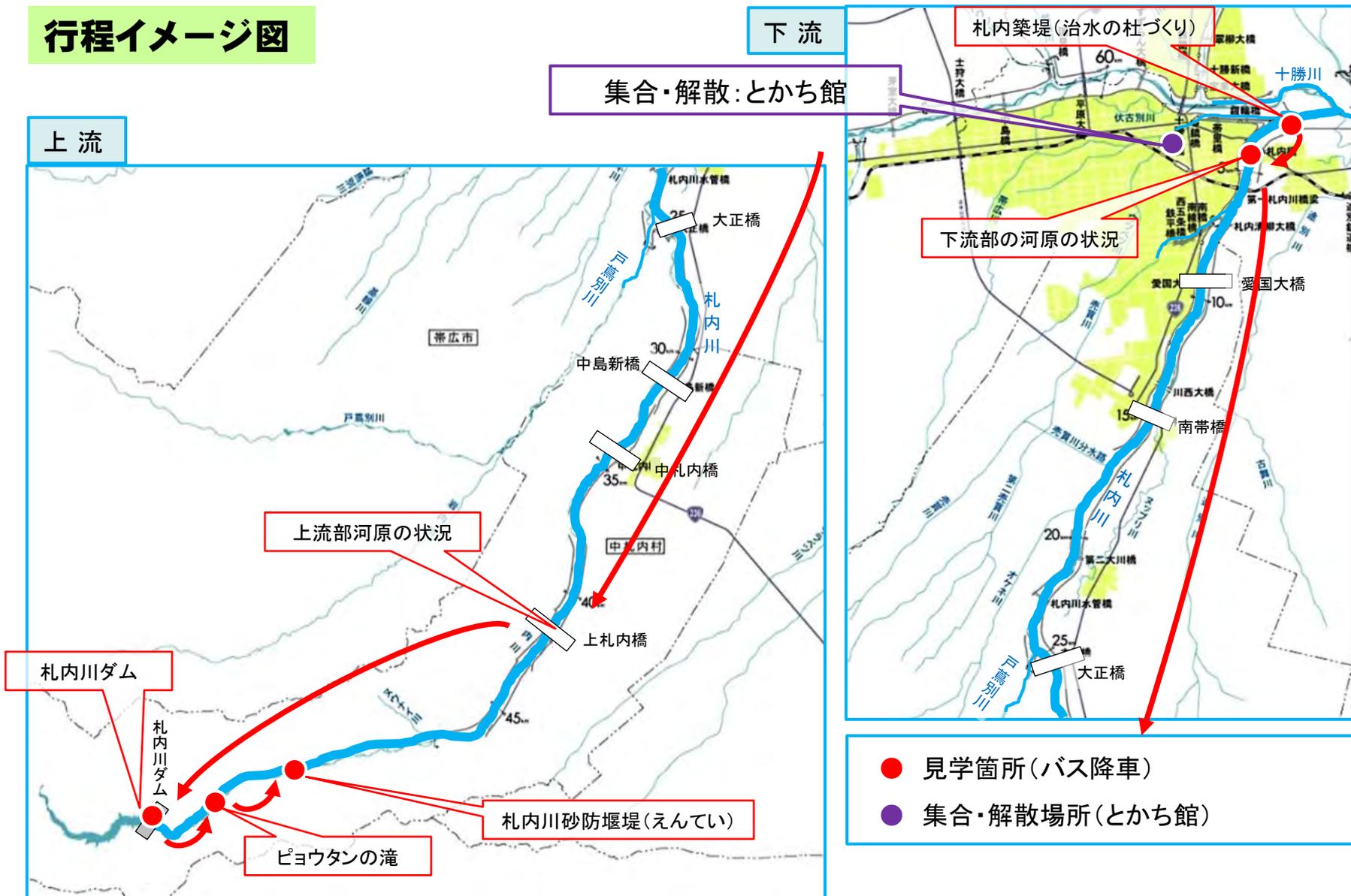


# 第4回札内川懇談会 現地資料

## 平成24年10月19日（金） 行程表

時間	内容	備考
9:00	とかち館集合 バス乗車	
9:15	札内築堤（ヴェルホーク城付近）	治水の杜づくりの紹介（高水敷利用状況も）
9:40	河原の状況 1	札内橋上流（高水敷の利用状況や魚類観察）
10:50	河原の状況 2	上流域の清流
11:30	札内川ダム	施設見学 ダム内
12:30	ピョウタンの滝	（トカチスグリ生育地）
14:00	札内川砂防堰堤（えんてい）	札内川の魚類連続性
15:00	とかち館到着	
15:15	意見交換会	メンバーより～現地感想 事務局より～中間とりまとめの概要
16:30	終了・解散	

## 行程イメージ図



## ◆目的



①万が一流水が堤防を越えたり堤防が崩れたりした場合に、川からあふれ出る水の勢いを押さえます。

②いざというときの水防資材。

③連続して整備（緑の連続）することで、豊かな河川環境創出。

④地域の憩いの場や学習の場として、多目的に利用。

このような樹林を整備することを「治水の杜づくり」と名付けています。

## ◆治水の杜づくりの推進

## ●住民参加

種取りや苗づくり、植樹などの作業に子供たちや地域の方々の御協力を得て、街づくりや子供たちの体験学習の一環として参加しています。



## ◆植樹方法

植樹の方法は、「生態学的混播・混植法」を採用しています。

①十勝管内で自生する樹木の種を採取し、植樹するための苗づくりを行います（1～2年程度育てます）。



②植樹する法面には、事前にマルチングとして砂利等を敷き均しておきます。

③植樹は、1つのマルチングに丈5～10cmの小さな苗5本～10本（様々な種類の樹木）を植えます。



「生態学的混播・混植法」  
 1つのマルチングの中に様々な種類の小さな苗を10本植えることで、成長過程の中で互いに切磋琢磨し、最終的にその土地の気候や風土にあった樹種が育つことで、より自然に近い健全な森が造られることを期待した植樹方法です。

## マルチングとは

苗木の定着・成長をよくするために、根の乾燥防止や雑草侵入防止、表面浸食の防止等の効果を期待するものです。

## (札内橋上下流)



札内川ゴルフ場



パークゴルフ場「はらっぱ36」

- 札内川右岸河川敷利用（幕別町）  
札内川下流部右岸側では、ゴルフ場、ゴルフ練習場、パークゴルフ場、さらに野球・ソフトボール・サッカー・バスケットボールなどのグラウンドがあり、多くの住民が利用しています



河川敷グラウンドのサッカー場

## (札内橋上流)



この付近では札内川は左岸側（帯広市側）に寄って流れている



右岸側（幕別町側）には石礫が堆積し遠浅となっている

## ● 札内川下流部

上流に比べて石礫の大きさが小さくなっています。

そのため、石や草の陰に隠れている魚を捕る「ガサガサ」が行いやすく、ここでは魚の捕獲と観察を行います。



浅く、流れが緩い場所にはウグイなどの幼魚が見られる

## (上札内橋下流)



6月のダム放流直後には、河床の藻が非常に少なくなっていた



右岸寄りには分流が流れ、流れの弱いところには藻の発生が見られる

## ● 札内川上流部

下流に比べて大きな石礫が多く見られます。

流れは緩い流れ、瀬、たまりがあります。水制工付近には深みがあり、中州からは伏流水の湧き水が確認できます

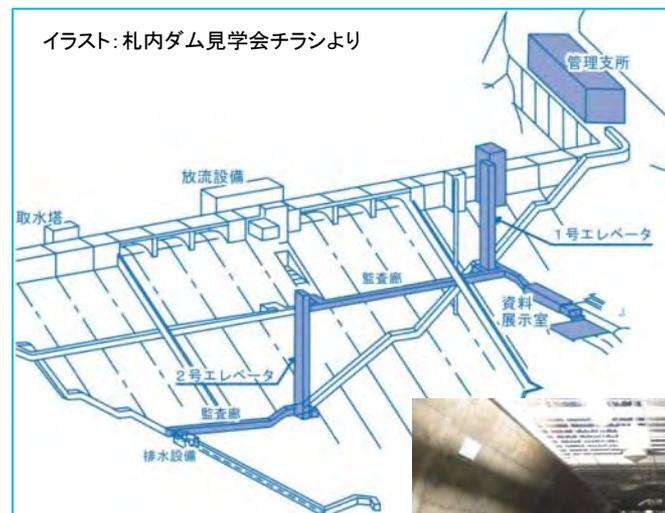


本流合流手前のたまり



水制工付近の深み

- ◆洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水、水道用水の供給（帯広市、芽室町、幕別町、音更町、池田町、中札内村、更別村）、発電を目的として平成10年に完成。



ダム堤体内部にある監査廊



監査廊

## 【ダムの諸元】

- ・ 高さ：114m
- ・ 長さ：300m
- ・ 総貯水容量：5千4百万 $m^3$

札内川ダムでは管理支所のあと、ダム堤体内部の監査廊を見てください

# 札内川ダム（2）

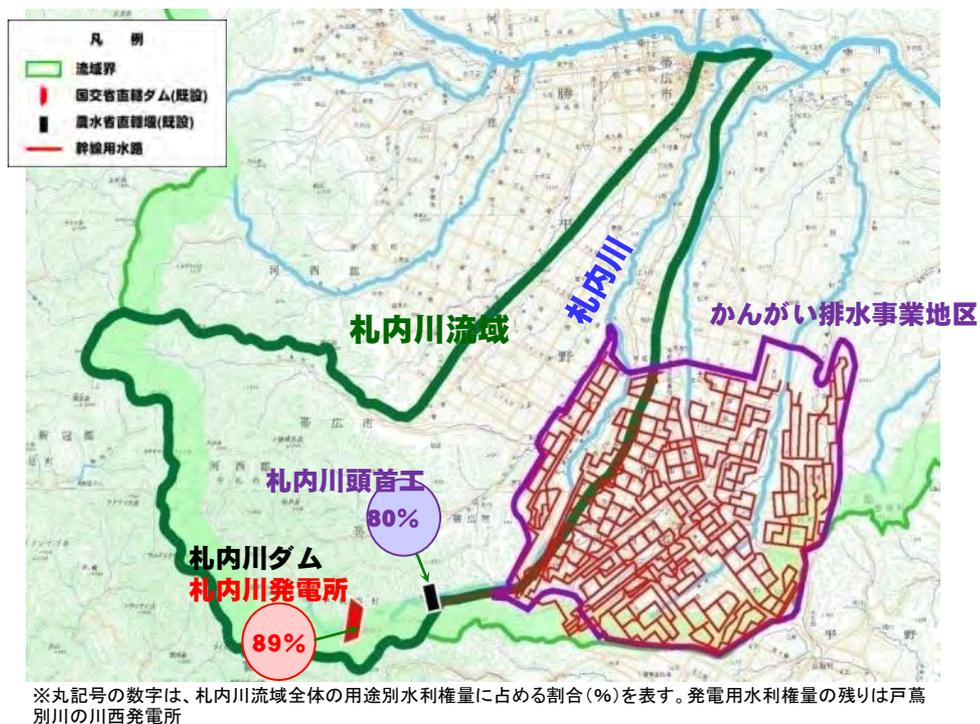
- ◆ 十勝川流域の水道用水の取水割合は河川水が約6割であり、その8割が札内川から取水されています。
- ◆ 札内川流域全体におけるかんがい用水の約8割が、札内川頭首工から取水されています。
- ◆ 札内川流域全体における発電用水の89%が札内川ダムから取水されています。

## 主な水道用水取水位置と給水区域図



※帯広市上下水道部ホームページ等を参考に作成。

## 国営かんがい排水事業地区と札内川発電所





ピョウタンの滝

## ピョウタンの滝

昭和29年：小水力発電所の貯水池として建設

（事業主体：中札内村農業協同組合）

（屋内配線総戸数：更別・大正村を含む750戸※1）

昭和30年大雨により発電機能を失いました。

昭和48年上水道の取水施設として再利用され、

滝は札内川園地の観光地として活用されています。

（※1：馬屋も含む）

## 札内川園地

ピョウタンの滝をシンボルとする園地。

園内には

- ・ 日高山脈山岳センター
- ・ キャンプ場
- ・ バーベキューハウス
- ・ レストハウス（休憩所）

などのほか、パークゴルフ場やテニスコートも整備され、家族連れや友人仲間のレクリエーション施設として、また登山者の拠点として利用されています。



（左）日高山脈山岳センター

（下）やまべ放流祭



## （札内川一号砂防堰堤）



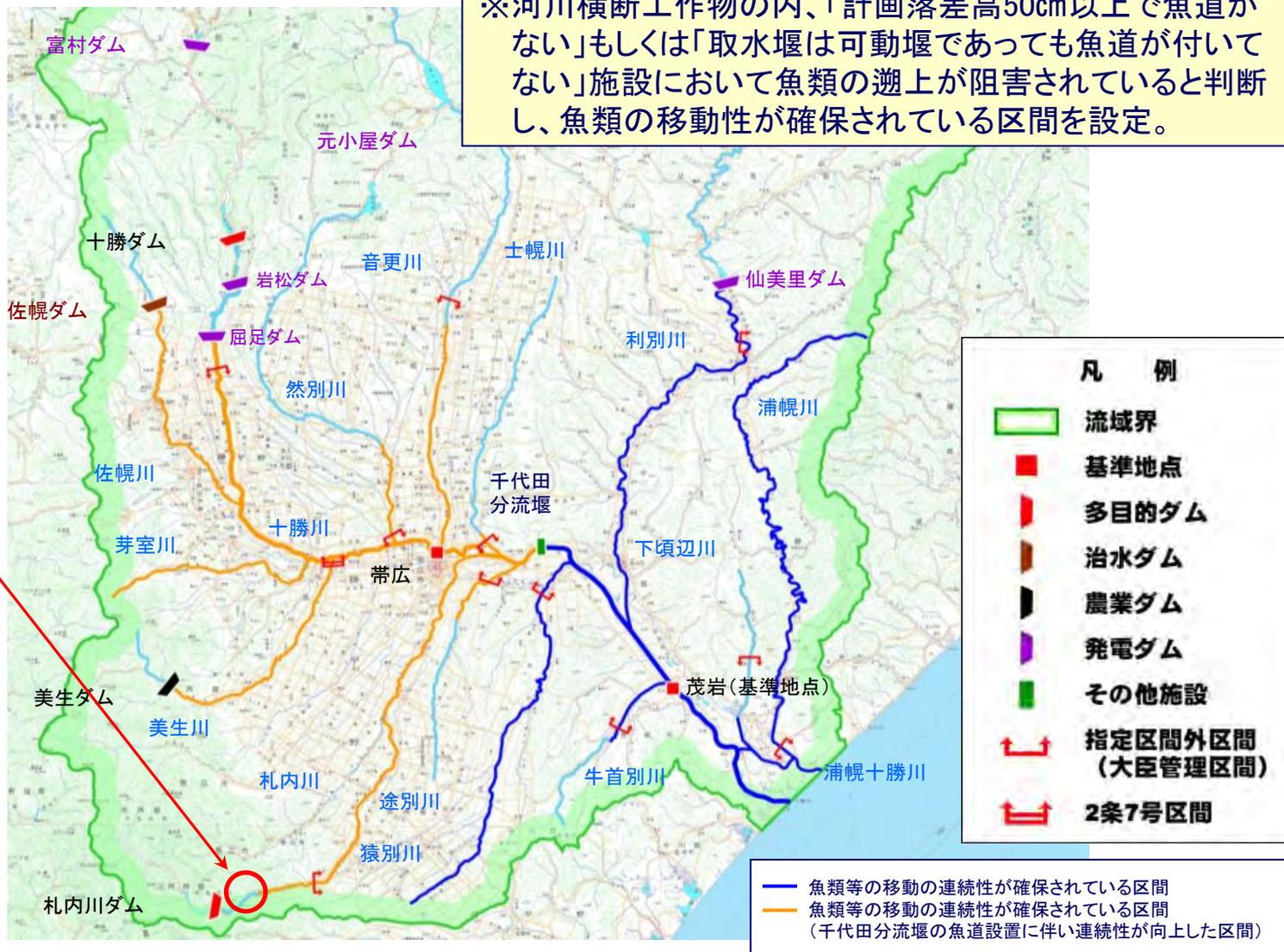
札内川一号砂防堰堤

札内川流域では、昭和29年9月の洞爺丸台風による風倒木被害に加え、昭和30年7月の土砂災害は前年に完成した発電ダム（現ピョウタンの滝）を一夜にして埋没させました。その時さらに下流へと流れた土石流が各所に堆積し、河床を上昇させ、その後の度重なる災害の原因となっていました。

砂防堰堤は、河道の縦浸食の防止、河床に堆積している不安定堆積物の流出防止、流出土砂の調節・調整、土石流の制御と防止の目的により設置しています。

# 札内川砂防堰堤（えんてい）

※河川横断工作物の内、「計画落差高50cm以上で魚道がない」もしくは「取水堰は可動堰であっても魚道が付いてない」施設において魚類の遡上が阻害されていると判断し、魚類の移動性が確保されている区間を設定。



ピョウタンの滝や、  
砂防堰堤(えんてい)

魚類等の移動の連続性が確保されている区間

※出典：帯広開発建設部及び帯広土木現業所調べ